

予算案より 事業費のぞく 6 巻の巻 経済局の巻

基本的な 者を実地に指導するようである。施設の完 備に施策 資源調査費二十万円がくまれの重点を ている。従来は多獲性の魚が おき、当 少かつた為、この新しい鯖釣 初二千二 漁法が普及すれば将来貴重な 百五十万 漁業となる可能性があり期待 円も要求 されている。

水産課の予算も、審議の度毎 技術員設置一八七万円があ に削られ、漸く要求額の約三 分の一七九九万円にまで 農業部面には普及員あり、駐 在各種技術員ありで 末端の声をきく制度 があるが、水産部面 ではこれまでこうし た組織がなかつた。 今後、漁村に駐在す るこれら二十名の技 術員によつて各種の 調査、報告、協組指 導、及び業界との密 接な連絡は保つてい ける筈である。

尖閣列島の資源調査

船 験 試 験 船 種 の 悩 み

継続事業の大きなの に漁船共済会への補 助があるが今年度も 一二五万が計上されている。 遠洋船延縄は、昨年の十隻か ら今年は三隻に減らされ三分 の一助成の六〇万円、依然と して悩みの種は水産試験船の 購入であり二二〇万円の要求 は全額削除の憂目をまてい

ます六二七万円の事 業予算から目新しい 事業をみると水産施 設補助費一三六万 円一の中に漁港施設助成一 六二万円一があり、全珠八カ 所の漁港を対象に整備費の三 分の二を補助する予定である 尖閣列島の鯖資源の発見によ り鯖漁業の奨励費一三四万円 一を取り上げているが、日本 から技術者を招聘し最も簡易 で効果的な鯖羽釣の漁法を導 入する計画でいる。この具 体的な構想としては試験船と 民間船を利用し技術習得希望